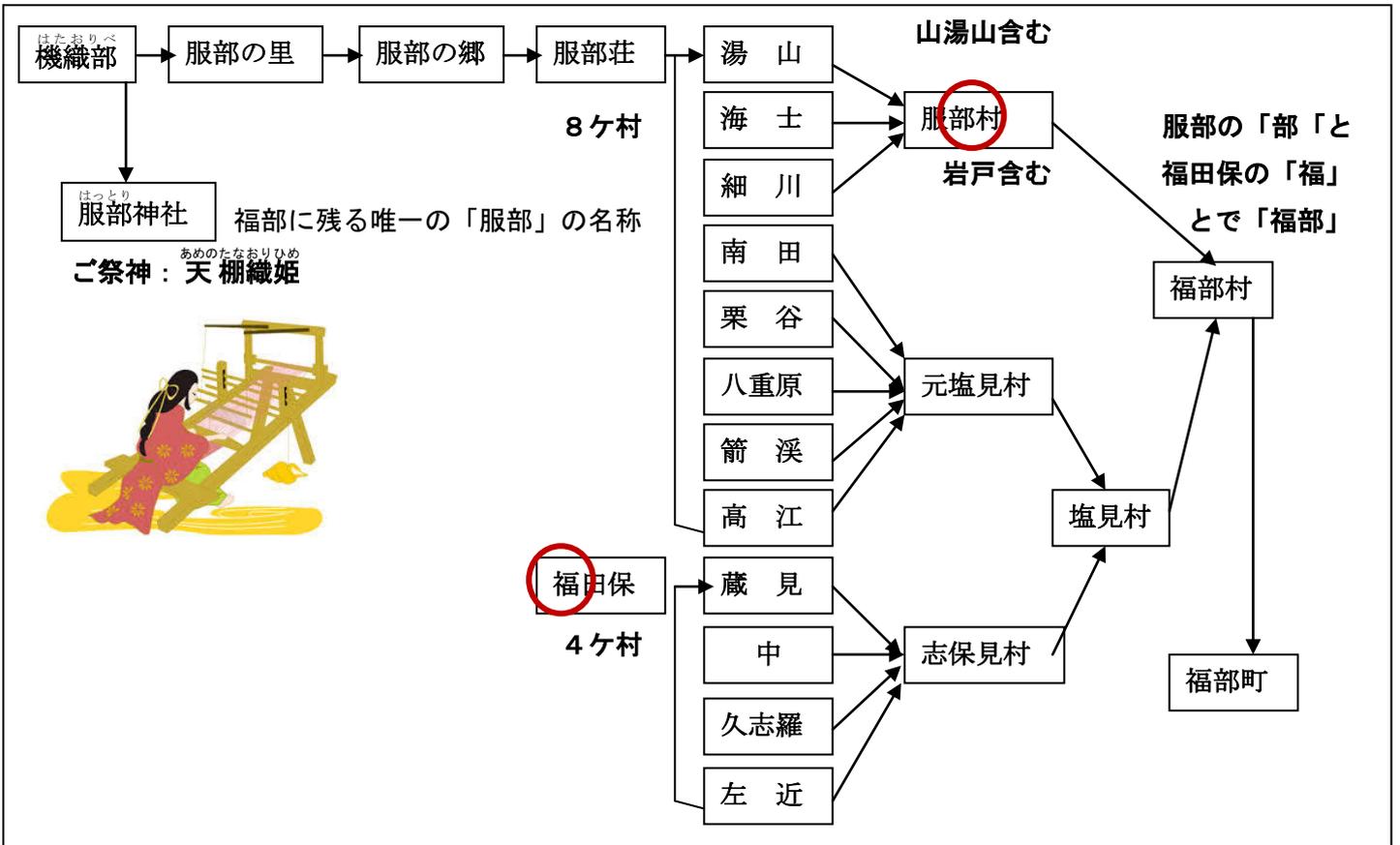


福部の地名の由来と歴史

石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代 明治時代 大正時代



時は1500年前の飛鳥時代646年)大化の改新の時代に律令制・部民制の時代に地域の品部(しなべ)(機能集団)により名付けられ「機織部」衣料関係の機織りを業とする機能集団である。
機織部はその後「服部」と呼び方が転化した。

「三代実録の貞観16年(874年)の条に「因幡国の服織神(はたおりかみ)に従5位上を授ける」とある。
服織神とは式内社服部神社(福部町海士)の祭神天棚織姫命(あめのたなおりひめのみこと)のことである。

この時代には砂丘地に桑を植え養蚕が営まれ機織り機能集団としての生活がスタートとしていたと思われる。
服部神社の横山宮司の話では、大正時代まで、海士一帯から砂丘地辺りは一面、桑畑で養蚕が盛んであった」という。

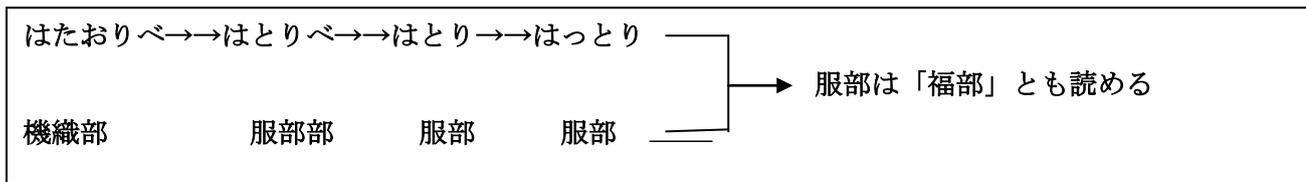
奈良時代前期には「服部の里」「服部の郷」と呼ばれ平安時代には「服部庄」へ。
江戸時代には服部庄(8ヶ村)海士・湯山(山湯山含む)・細川(岩戸含む)・南田・栗谷・八重原・矢谷・高江
福田保(4ヶ村)左近・久志羅・中村・蔵見
に区分される。

大正時代(6年)志保美村(福田保4ヶ村)と南田の5ヶ村
元塩見村(服部庄8ヶ村から南田を除く7ヶ村)が合併して「塩見村」となる。

昭和時代(3年)服部村と塩見村が合併して「福部村」となる。

平成16年に鳥取市と合併して鳥取市福部町となる。

福部の地名の由来には別の説もあるようだ。



しかし福部村史によると「福」の字を当てたのは、ふくべが全体合併の際に「福田保」の「福」と「服部村」の「部」のそれぞれ1文字を組み合わせたものと思われる。

本来なら「ふくべ」の長い歴史を考える場合、歴史の根拠となる「服部」（読み方は「はっとり」または「ふくべ」でも構わないが）と表記すべきだったと考える。